

湯量も効能もまさに名湯!

草津温泉

納得の「泉質主義」

第22回「にっぽんの温泉100選」第1位

Abundant. Natural. Pure. Proud of Our Onsen Excellence.
主義 泉質 onsen ISM KUSATSU

草津温泉観光協会

〒377-1711 群馬県吾妻郡草津町3-9

☎0279-88-0800

URL <http://www.kusatsu-onsen.ne.jp>

観光経済新聞社主催による「第22回にっぽんの温泉100選」において、草津温泉が6年連続で第1位に選ばれました。

草津温泉は「泉質主義」を掲げています。温泉に対する熱いこだわりを持っています。「温泉から学び、温泉を大切に、温泉と生きてゆこう」。ちょっとオーバーですがそんな気持ちで日本中の温泉ファンをもっともっとあたたかくおもてなししたい、と考えています。

草津のシンボル 湯畑



神秘の火口湖 湯釜



草津名物 湯もみ



草津へのアクセス

●東京方面から

車

ROUTE.1 練馬IC 関越道 103km 浅川伊香保IC R353-145 50km 長野原(大津) R292 10km 草津

ROUTE.2 練馬IC 関越道 80km 藤岡JCT 上信越道 50km 碓氷軽井沢IC R18 12km 中軽井沢 R146-292 43km 草津

電車+バス

ROUTE.1 上野 特急「草津」 2時間28分 長野原草津口 JRバス 25分 草津

ROUTE.2 東京 長野新幹線 1時間10分 軽井沢 草津バス・西武高尾バス 1時間20~40分 草津

●大阪・名古屋方面から

車

ROUTE.1 吹田IC 名神高速道 168km 小牧JCT 中央道 4km 岡谷JCT 73km 更埴JCT 23km 上信越道 R292 10km 草津

ROUTE.2 小牧JCT 中央道 165km 岡谷JCT 4km 岡谷IC R142 66km 佐久 R18 17km 中軽井沢 R146-292 43km 草津

電車+バス

ROUTE.1 新大阪 北海道新幹線 3時間 東京 山手線 7分 上野 特急「草津」 2時間28分 長野原草津口 JRバス 25分 草津

ROUTE.2 名古屋 特急「しなの」 2時間50分 長野 長野新幹線 30分 軽井沢 草津バス・西武高尾バス 1時間20~40分 草津



2009年まつり・イベント

鬼火が誘う地獄の谷



期間 2009年6月1日~11月30日
時間 19:30~22:00

地獄の谷の鬼花火



期間 2009年6月1日~8月21日
6月1日オープニング特別開催
期間中毎週木・金曜日開催 全25回
時間 20:30~

第46回登別地獄まつり



期間 2009年8月29日~30日

第39回登別温泉湯まつり



期間 2010年2月3日~4日

泊まってわかる! 北の湯之国・登別温泉



市外局番(0143)

- 第一滝本館 ☎84-3322
- ホテルまほろば ☎84-2211
- 登別石水亭 ☎84-2255
- 祝いの宿登別グランドホテル ☎84-2101
- 登別万世閣 ☎84-3500
- 望楼NOGUCHI登別 ☎84-3939
- 名湯の宿パークホテル雅香 ☎84-2335
- ホテルゆもと登別 ☎84-2277
- 旅亭花ゆら ☎84-2322
- 御やど清水屋 ☎84-2145
- 登別温泉郷滝乃家 ☎84-2222
- 滝本イン ☎84-2205
- 玉乃湯 ☎84-3333
- 花鐘亭はなや ☎84-2521

松浦武四郎が登別温泉に初めて足跡をのこしたのは、弘化2(1845)年のことでした。それから15年後の万延元(1860)年には、箱館奉行所において、南部藩箱館留守居役であった上山半右衛門が、11種から成る書類をわたされた。そのうちのひとつであった演説書の中に、「前略」登別山中に温泉があるので、去る安政5(1858)年新道を開き、止宿所を建設した。旅人ならびに蝦夷人たちが自由に湯治をしていい」と、温泉の所在と役割が述べられている。温泉の所在と役割が述べられている。温泉の所在と役割が述べられている。

登別温泉の歴史



極楽通り

温泉街を浴衣姿で歩くのは、温泉旅行の大きな楽しみ。登別温泉街のメインストリートは「極楽通り」の愛称で親しまれており、通りに面して商店やみやげ店、飲食店が軒を並べています。みやげ店には登別温泉産品が数多く取り揃えられており、お土産の宝庫です。お土産の宝庫です。お土産の宝庫です。



さらには大正4(1915)年には、現在のJR登別駅から温泉までの8キロの間に、軌道馬車の鉄道を敷設されたのを皮切りに、3年後には蒸気機関車が、10年後には発電所が建設され、電車も走るに至ります。こうして着々と今日の登別温泉街の基礎ができていき、歩みを進めるようになっていきました。



登別伊達時代村

江戸時代の街並を時代考証に基づき忠実に再現。94棟の木造建築物が立ち並び、忍者達の大死闘をハイビジョンで楽しめる大忍術映像館や、妖怪が勢揃いする妖怪びっくり小屋、お大尽遊びを再現した日本伝統文化劇場などアトラクションが一杯です。



登別マリンパークニクス

北欧のロマンチックな街並を再現。最大の見所は海洋美術館ニクス城で、内部が水族館になっており、頭上をサケやサメなどの魚群が回遊し、幻想的な海の世界が広がります。イルカやアシカのショーや、ペンギンのパレードも大人気です。



のほりべつクマ牧場

登別温泉からロープウェイで登った山頂にあります。現在は100頭以上のエンヒグマを飼育しており、第一牧場と第二牧場からなり、雄・雌別々に集団で生活しています。また、世界でもめずらしいヒグマ博物館やアイヌ民族の生活様式を再現したユーカーラの里などもあります。

泉源公園

地獄谷から流れる温泉の川沿いから噴き出す、間欠泉を活用した公園。約3時間間の間隔で迫力ある音・湯気とともに、勢いよく噴き出す間欠泉を体感することができます。



社団法人 **登別観光協会**
059-0551
北海道登別市登別温泉町60番地
TEL (0143) 84-3311
<http://nobaribetsuspa.dip.jp/nobo/>